

大垣真宗学院 同窓会

同窓会報 第5号

発行日 2012年10月9日
事務局 岐阜県大垣市伝馬町11
大垣教務所内
電話 0584-78-3363
FAX 0584-78-3353
郵便局振替口座番号 0830-7-206305



会長あいさつ



同窓会長 高垣 康平
(一九八九年卒 岐阜教区)

第五回同窓会総会が本年六月九日、大垣教区同朋会館において開催されました。今回は夏の上山研修の御案内も同封し、四百四十六通の総会案内状を発送いたしました。総会には御指導の先生七名、東海三県の各教区と福井教区より合わせて四十二名の会員がご参集くださいました。

議案審議の後、飯山等先生から「仏、言わく」誦聴誦聴「善思念之」との講題で特別講義をいただき、一同法悦の誘いを頂いたことであります。懇親会もマイクを回して先生、会員ともに現況を報告。和気あいあいの学院らしい雰囲気なのか、予定した全日程を終了することが出来ました。

さて、来年二〇一三年は同窓会が発足して五周年、そして学院の創立六〇周年という得難き節目の年に当たります。さらに大垣教区では現在、真宗学院施設整備委員会が発足し、いよいよ新校舎建設を目指して動きが活発化しているようです。このことについても素通りは出来ません。次回総会はこの大きな節目を皆様とともにお祝いしたいと思います。前年にあたる今次総会が盛会であったことは来年への大きな力となるものと確信し、意を強くしました。ひとえに会員皆様の御協力の賜物と感謝し、あわせて来年の五周年記念総会と記念事業への御協力と御指導をよろしくお願い申し上げます。

同窓会よりお知らせ

来年六月八日に五周年記念総会

記念講演会・祝賀会など多彩に

来年二〇一三年は会が発足してから早いもので五周年に当たります。この大事な節目の年を祝おうと表記のことを役員会でとりあげ、議論を重ねております。

まず、来年の総会は「五周年記念総会」と位置づけ、六月八日(土)、場所は大垣教区同明会館にて開催いたします。記念講演として、当学院OBの長谷正富先生を講師にお迎えします。先生は高岡教区の御出身で、一九九一年に当学院を御卒業され、現在は京都大名誉教授です。哲学・宗教学者として活躍され、「心に映る無限 空のイマージュ化」「浄土とは何か 親鸞の思索と土における超越」(ともに法蔵館)などの著書があります。

祝賀・懇親会は、会場をイベントホールに移して行う予定です。演出も特別なことを企画しています。それは現在、学院の夏期集中四回生の鈴木智顕さん(岐阜教区)が、ボーカルグループ「AJI」(アジ)の元メンバーであるご縁で、AJI特別公演の契約ができました。AJIは今年六、七月の「NHKみんなのうた」に出演。「ほうき星」「陽はまた昇る」の曲が放送され、人気を博しているグループです。重なり合う歌声がおりなすハーモニーは正に記念行事に相応しいものと期待しております。なお、懇親会の司会は鈴木さんが担当してくれれます。その他、会員による仏教

讃歌のコーラスなども予定しています。

この会への御案内は、会員はもとより学院生、関係教区寺院様にも広く呼びかけて、相互の交遊をはかる機会にしたく思います。さらにこの記念総会をはじめ同窓会の歴史と学院の歴史を記録するため、記念誌の刊行を考えています。詳細は、今後さらに検討してまいります。会員皆さまには、どうかこの一連の記念事業に特別のご理解と御協力を賜りたくお願い申し上げます。また、記念事業のモチ方についても、ご意見やアイデアをお寄せいただければ幸いです。

最後になりますが、同窓会の念願であったホームページが開設されました。同窓会、学院の情報を随時発信していきますので、どうぞアクセスを宜しくお願いします。(高垣) アドレスは次の通りです。

※ホームページ <http://www.dkm.ac.jp/gokusan/densokan/>

大垣真宗学院の動き

〓五名が卒業 入学は五名〓

二〇一一年度卒業式は去る三月十一日、教区同明会館で行われ、カリキュラムを終えられた五名が新たな志を胸に卒業されました。また、二〇一二年度入学生は夏期集中の五名です。

在学生の教区別内訳をみると、大垣一十三名、岐阜七名、名古屋四名、三重六名、岡崎一名、長浜六名、京都三名、鹿児島一名です。コース別では、土曜昼間十四名、土曜夜間十九名、夏期集中十九名の計五十二名が日夜勉学に励んでいます。

収支決算と予算案のご報告

2011年度収支決算概要

収入	前年度繰越金	1,770,472	
	終身会費	290,000	29人分終身会費
	社会参加費	146,500	新入生・社会参加者、聖教会等
	利息	146	
収入計		2,208,117	
支出	会議費	212,589	総会・聖教会、聖教会等
	事業費	42,098	会報誌発行費
	事務運営費	62,404	会報誌発送等
支出計		307,091	
次年度繰越金		1,899,026	

2012年度予算概要

収入	前年度繰越金	1,899,026	
	終身会費	200,000	
	社会参加費	150,000	
	利息	150	
収入計		2,249,176	
支出	会議費	245,000	
	事業費	85,000	
	事務運営費	74,000	
支出計		404,000	
次年度繰越金		1,845,176	

第五回総会では、左記の内容で二〇一一年度収支決算報告ならびに二〇一二年度会計予算案のご承認を賜りました。ありがとうございました。

※卒業生の皆様には本会の趣旨にご賛同頂き、終身会費のご納入を宜しく申し上げます。



各地から四十二名が参加いただき、総会を深めました。

第五回 大垣真宗学院同窓会

開催 二〇一二年度六月九日

懇親会及び懇親会

大垣教区同明会館

学院同窓会に参加して

同窓会に思う



岩月 忠幸

(二〇〇五年卒 岡崎教区)

久しぶりの学院仲間、とても温かく受け入れていただき、心よりお礼申し上げます。幹事の皆様の周到な準備、先生方の熱意に、懐かしさを越える新鮮な気持ちに浸らせていただきました。在家の私が今も法務のお手伝いに参加させていただける原点がここにあると改めて感謝いたしております。

【現況報告】

家族、身内の声援もあって今も楽しく法務のお手伝いをしていきます。卒業以来、岡崎真宗学院で聴講させていただく傍ら、四年ほど前から息子や嫁、近親を中心に毎四季聴聞報告をしています。家の裏が通学路ですので、掲示板を立て、仏典童話やいのちの言葉、別院での子ども行事などの掲示を続けます。時々立ち読みの子らがおり、近所の方からも「よく続くね」と声を掛けていただいております。その他、仲間と例月の「経論書写会」や時には花まつりで甘茶、お取越しの名でや飲会などを行っております。

【今考えていること】

私は憶えないないころ母を亡くし、子の無い家で



香子としてお育ていただきました。三十年代半ばで父親を亡くして以来、自坊同朋会でお世話になっております。永年の活動の中で財産の相続も大切だが、それ以上に家の教えを相続することが大切とお聞きし、我が身に浴った聴聞を模索してまいりました。定年近くにやうと縁結して学院でお世話になりました。

「眞実信心」とか「自信教人信」のお言葉との出会いをいただく中で、自坊からお誘いをいただき、「塵・行」の学びとして、法務のお手伝いをさせていただいております。五濁の世、凡夫が往生を尋ねることは、人間の深い願であり、法要や葬儀もそのために行なわれていると思います。教師としては、教法の宣布、儀式執行が大切な仕事ですが、お手伝いの中では未だ役留の役割を十分に果たせず、ご指導をいただいております。伝道研修へも参加させていただき、より主体的な活動を模索しておりますが、皆さまからのアドバイスも宜しくお願いいたします。

同窓会に参加して



小林 法子

(二〇一一年卒 岐阜教区)

以前から仏教を学びたいと願っていた私は五年前、ようやくその縁をいただいて真宗学院生となりました。入学前は「どんな人たちと学ぶのだろう」「土曜日夜間のクラスだから気難しい男の人ばかりでは」と心配でしたが、幸い女の人もみえ、それぞれいろんな立場や、年齢差もありましたが、すぐにうちとけ合うことができ、学院に通うのが楽しみでした。毎年の上山研修は、他のクラスの人たちとも交流でき、自坊を離れて研修に集中できる三日間でした。

しかしながら、理解力、表現力の乏しいわたしは、いつもレポーターに悩まされていました。そんな時も、先生方や皆さんの温かい励ましがありました。昨年皆さんとともに卒業することができたのも、そういった先生方や皆さんのお蔭です。

今回、わずか一年三カ月ぶりですが、皆さんとお会いできることをとても楽しみにしておりました。皆さんの元気な姿や近況をお聞きしても、当時の雰囲気のまま、とてもうれしく思いました。飯山先生の講義では、「しっかり見られているのか、聞いているのか」という問い掛けが耳に残りました。

これまで学びや法話などを聞いたりし、生活の中でも私なりに感じ、「ああこのことは、こういうことだったのか」と受けとっているものはあるのですが、まだまだ分からないことが多いので、「この受け取りでいいのだろうか」「間違っているのでは」と思うことがばかりです。これからも機会を見つけて、もっともっと聴聞を続けていきたいと思っております。そして共に学んできた皆さんや先生方、会員の皆さんのお話しを聞きながら、自分を振り返り、聴聞を続けていく場として来年も参加したいと思っております。



『当時を振り返って・・・人との縁』



佐野 民人

(一九九三年卒 福井教区)

振り返ると、学院の夜間第一期生として卒業してからもう二十年余りが経過し、現在では私も家族を支える一家の大黒柱として頑張っております。入学時はまだ大学四回生で、遊び、卒論、就職活動などで忙しかつた中、私は自坊の将来を考え、この学院にお世話になったわけですか。しかし、「本当に福井から通えるの？」と入学時の面接で聞かれたことを、今でも思い出します。

当時は土曜の夕方四時四十分から八時三十分までの間にニコマの講義の合間に、仕出し屋のお弁当をきれいな奥様方と一緒にいただき、楽しいひと時を過ごさせていただいたこと、福井への電車に乗り遅れた時には一緒に授業を受けていた年配の生徒さんになんげ米原駅まで送っていただいたことなど、大変お世話になったことが思い出されます(皆さん、お元気ですか!)。また、社会人になって通った二年間は、自由な時間がない中、当時の彼女(現在の奥様)の協力で、修練に参加するために休暇を快く承諾してくれた職場の上司や同僚の理解のおかげで、無事卒業することができました(感謝・感謝)。

しかし、その頃は勉強に励めば励むほど、「将来、このような私で住職が務まるのか」と思い悩んでいました。というのは、人付き合いが余り上手でない私が今後、寺を背負い、門徒さんの面倒を見ることのできるのか。また、私には兄がおり、兄が継ぐべきでは、と考えていたからです。兄は関西で就職しており、福井へ帰るには難しいようでした。そのような状況の中で兄は寺を継ぐ決心をしてくれ、一安心したのも束の間、その兄が三年前に突然、病気で

他界してしまつたのです。

今では兄の遺志を継ぎ、大学生である双子の姪っ子が今年九月に得度し、寺の跡継ぎとして一步を踏み出す予定でおります。その得度講習でお世話になったのが、同窓の朝倉光寿さん(福井)のようだと、今回の同窓会に出席して判明しました。なんて世間は狭いのかとつくづく感じたところです。

このように学院からさまざまな人との良きご縁をいただき、ありがとうございます。今後も人とのご縁を大切にしたいと思います。

同窓会に思う



早野 法教

(一九七六年卒 大垣教区)

学院卒業後、はや三十六年経過しました。当時の学びを振り返ってみると親に言われて嫌々参加していた気がしますが、今思えばこれが良かったと、つくづく懐かに感謝しています。

最近、学院時代の作文が見つかったので一部紹介いたします。

『修練の三日間を通して』

修練に来る前は「仏の名のもとに」を読んだが、さて何をしたらよいのか何をすべきかさっぱり見当がつかなかった。緝弾テープの中に出てくる言葉「口を開けばナンマンガブ、ナンマンガブと仰っておるんです。私には歌を歌っているようにしか聞こえませんか」と言われているの聞いて、私の心の中に、親鸞聖人の弟子になるように一つも努力していなかったことがつくづく分かった次第です。

『聲明について、本尊論を通じて』

真の本尊に出会うこと、また読誦して聲明をとனால்ればよいと聞きましたが、毎日の講義を聞けば聞

くほどわからなくなつてしまつた。聖典に「教化する人、まず信心をよく決定して、そのうえにて聖教をよめば、聞く人も信をとるべし」とあるように、信心をよくわきまえて読誦して聲明するように努力したい。読誦までいけなくても、最低でも心のこもつたものにしていきたい。また「ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべし」の言葉にそうように努力しなければ、自分が見失うと思います。いつも南無弥陀仏、ナンマンガブとどこでも称名するように心がけることにより、多少でも聲明に今までより違つたものが生まれると思います。

現在の自分はこの作文にある言葉がどれほど実施できているか、疑問です。少しは成長していると思いたいのです。

本堂整理の中で見つけた前任職のノートにこんなのが貼ってありました。

「葬儀は僧侶の門徒に対する、最も重要な奉仕活動であります。しかるにこれが現状はともすれば形式主義や習慣性に流れがちであることは、深く反省する必要がありますと存じます。僧侶が葬儀の場において、何一つ感銘を与えることができぬようでは、本當の葬儀を務めたとはいえない」。



これを読んで私は任職になって十七年も経つのに何回出会ったかと反省する次第です。副組長、組長を経験し、会議等で皆さま方の行動等が色々勉強になっています。今まで以上に門徒さんに好かれるように勉強します。特に真宗学院同窓会に極力参加して皆さまのお知恵を吸収したいと思っております。いつまで元気で活動めができるかな。



真宗学院OBOG上山

真宗学院同窓会は八月二十九、三十、三十一日の三日間、学院の上山研修に合わせて、真宗学院OBOG奉仕団とともに上山しました。

昨年までは役員だけで上山していましたが、「広く同窓会員に声を掛けて、会員の学びと現役生との交流の場にした」との願いのもと、今年は皆様に募らせていただきました。せっかく申し込まれたのに都合が悪くなられた方も数人あり、計十七名の参加でした。

日程では二十九日夕、学院生と同朋会館で合流。二十九、三十日は高史明先生から三回講義いただきました。講義後の班別座談ではOBOGで一班をつくり、鷹橋賢由先生、五辻文昭先生に班担をしていただき、懐かしい雰囲気の中、大いに話が盛り上がりました。

また、夜には先生方、学院生を交えた懇親会が催され、同朋会館の館規を守りながら、車座になって和やかに仏法談義が行われました。現役生と共に学ぶと学院生時代の気持ちがいっぱい起こされ、刺激的な、あっという間の三日間でした。

来年も上山研修を企画します。総会とともに案内させていただきますので、どうぞ、ご期待ください。

OBOG奉仕団の感想

・何年かぶりの奉仕団で、大変楽しく参加できました。世間のわずらわしさから離れて、学院の同窓生皆さんと何か一緒にいると楽しかったです。アフターも楽しかったです。またしばらく頑張れそうです。
(朝倉光寿 一九九九年卒 福井教区)

・人付き合いが苦手な同窓会にも出席してこなかった私ですが、ご本山が私を呼び寄せてくれました。高先生は、本来のいのちのあり様からかけ離れている人間の智慧の無明性を語られました。御影堂爆破事件の活動家の心を多少なりともとめさせた、手を合わす息子さんの姿のお話しが心に響きました。人の心を動かすのは、決して大きな声ではないのではないかと思えます。班別座談では、何となくわかつたつもりになっていた私ですが、観念だけで考えているのだと改めて思われました。
(稲葉厚子 一九九六年卒 大垣)

・同窓会を立ち上げてくださった関係者各位に感謝するとともに、今回、高先生の研修会に参加の機会を与えていただき、ありがとうございます。
(大谷 泰 一九九六年卒 三重)

・高先生の講義について。亡き息子さんが両手を合わせている姿が御影堂爆破犯にだんだん通じていったというお話し、亡き人が願いをかけてくださるといふ仏のはたらきを感じ、感動しました。高先生ご夫婦の悲しみ苦しみが昇華されたお姿に直接ふれて感動しました。人生のうちには「文字しりがあ」では解決できないことが起こってくるが、卒業後の十七、八年のうちにも起こってきたと思うのですが、

善悪の判断を良しとして、うやむやにやり過ごしていったように思います。

(大谷俊子 一九九六年卒 三重)

・少し体調を崩しての参加でしたが、みなさんとともに高先生のお話しを聞いたことは大変うれしく感じました。来年の五周年を記念して少ずつ機運を高めていき、先生方が築いてくださった学院の歩みが一つに結集することを願ってやみません。

(海北誓子 二〇〇七年卒 長浜)

・法の主体である命が私を生きている。私が命を生かしているわけではなかった。みんなバラバラでいっしょでありたい。(加納正博 二〇〇七年卒 岐阜)

・この三日間は私にとって心の洗濯日。魔法にかけられたような軽い心になれるのはここに来た証。次によってくるだろう諸々の出来事に「こんには」と挨拶しながら、ここに來れる日を楽しみに歩んでみよう。(窪田和枝 一九九九年卒 高山)

・久しぶりに会う顔の方などため、たくさんの方々とお話しながらできました。やはり学院での学びや上山研修の経験、修練の時のことなどを通じた仲間作りの場は重要で、学院の良い所であるし、同窓会としてもさらに、その場を拓いていけるように務めていきたい。(児玉俊雄 一九九六年卒 大垣)

・今年是一般会員の万も上山奉仕したのでにぎやかに新たな出会いもあって良かったと思いました。遠い所からも来ていただき、座談会でも「楽しくかたがない」「いい思い出が嬉しい」「心が軽やかになる」と聞かせていただき、こちらがうれしくなりました。高先生のお話しも先生にとって辛いお

話しでした。ですが、そのことが先生にとって聖人のみ教えに出遇われる縁だったのです。このことは私たちにとても大切なお話だったと思います。今後、私たちがどう歩むのかをお示しいただきたいとでした。(佐藤義成 一九七一年卒 長浜)

・久しぶりの上山でした。この場にいることへの満足感だけでいいの。この場にいる心地良さ、感情は何なのか？早く帰る予定でしたが、何かに引き止められています。最後までいることにしました。(杉原光子 二〇〇八年卒 大垣)

・真宗学院という大家族で参加した研修会だと実感しました。(高垣康平 一九八九年卒 岐阜)

・学院在学中と違って、日常生活の中で日々考えている問いを持って滞在できたことで、真宗の教えをさらに深く考え、これからの生活に生かしていくことができるように思えました。高先生のお話しを聞かせていただき、迷いなく真宗に生きることができるようになりました。懇親会でいるいるな方と仏教のお話しができたことはとても有意義でした。素晴らしい出会いに感謝しています。(沼口諭 二〇一一年卒 大垣)

・高先生の講義を拝聴する縁に出遇えたことは、私にまた多くの「問い」をいただいたと感じています。「人間は愚かである」ということは言葉ではわかっていても、自分の身に置き換えられない私であった。(沼田登喜子 二〇一一年卒 東京)

・参加する前から楽しみにしていました。初めてお会いする方はかりでしたが元気をいただきました。高先生のお話しは二日間充実した内容。改めて卒業

してからの自分の生活等、反省！ 力まずそれでも誠実に！と思いました。また、学院での学びが私にとって本当に心強いものであることを再認識しました。(山吹静子 二〇〇三年卒 東京)

・ぎりぎりまで参加できるかなと思っておりでしたが、参加できました。久しぶりに高先生のお話しがじっくりと聞けてうれしかったです。まだまだ気持ち不安定ですが、今回の上山で同室の方と話ができて、元気になった私でした。ありがとうございました。(和田恭子 一九九三年卒 岐阜)

編集後記

同窓会報第五号を発行することができました。二頁のお知らせにあるように、来年六月八日は同窓会発足五周年を祝う記念総会が催されます。いろいろな企画で盛り上げたいと思います。どうぞ、皆さまのご参加、ご協力を宜しくお願いします。



来年もお会いしましょう！

また、来夏(八月末)もOB・OG奉仕団を募集予定です。こちらへの参加もご予定ください。卒業年度や教区が違っても顔も知らない人であっても、同明会館にいれば、親しくなれるのが不思議です。同じ道を歩まんとする同行としての自覚からでしょうか。